

| | |
|------------------|---|
| Title | 奥付 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾大学工学部 |
| Publication year | 2014 |
| Jtitle | 新版 窮理図解 No.15 (2014. 1) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000015-0011 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

産学連携のカタチ

青木義満

言うまでもなく、工学研究の最終目標は、研究活動によって生み出された新規技術を、人々の生活に役立て、新たな産業的、社会的価値を生み出すことにあります。その目標に向けて、大学、企業などでさまざまな研究活動が日々行われています。

大学の研究室が企業と異なる最大の点は、研究という最高の素材を通して、学生を教育しているところだと思います。また、大学で行われる研究なので、特に学術的な新規性や着眼点の新しさなどが求められます。産学連携で企業側から求められるのは、大学での自由な発想に基づく新規技術や着眼点といったところだと思いますが、連携の仕方によって、共

同研究の成果が生み出されるスピードは大きく変わってきます。

私の研究室では、学内外の研究機関、企業と連携しながら、多数のプロジェクトを進めています。その連携の方法はさまざまです。通常の産学連携では、月例で進捗状況を確認するようなことが多くみられますが、最近の青木研では、プロジェクト用の研究スペースを確保し、研究担当の学生と企業の若手研究者たちが日々議論しながら、研究を推進するような連携の形が増えています。

学生にとっては、かなりキツイ状況だと思いますが、学生のうちから企業の考え方に触れ、毎週のように互いの進捗状況を確認しながら進めていくので、方針がブレることも少なく、より早く成果を出すことができます。最近の事例では、このような連携による1~2年の成果が、

現在、事業化に結びつくところまで進んでいます。

一方で、企業から共同研究に関する相談を受けていて最近感じることはありません。以前は、比較的すぐに事業化に結びつくような大学発の技術を求めてもらえることが多くありました。しかし、このところ、どの企業もこれからの見据えた上で、新しいことを始めたい、少し時間がかかってもいいので、大学がもっている将来性のありそうな新規技術を探し、連携したい、というケースが明らかに増えているような気がします。

個々の研究のステージによって、当然のことながら産学連携の方法もさまざまな形があり得ます。互いの得意なところを出し合い、win-winの関係に導くための方策を考えながら、前進する日々を過ごしています。

理工学 Information

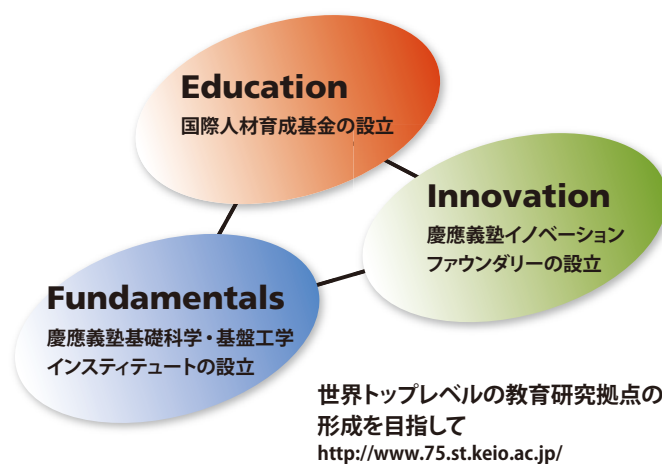
2014年、理工学部は創立75年を迎えました

藤原銀次郎氏によって、現在の理工学部の前身である藤原工業大学が1939年に設立され、2014年に理工学部は創立75年を迎えました。この記念すべき歴史の節目にあたり、創立75年記念事業を計画し、その実現に向けてあらゆる面からの活動を進めています。

記念事業の大きな柱は3つで、世界に通じる人材育成のための教育プログラムの充実と、これを支援するための国際人材育成基金の設立、産業界で活躍する博士人材の育成を念頭に新たな産学連携研究施設としての慶應義塾イノベーションファウンダリーの設立、そして世界をリードするユニークな研究の育成を目的とした慶應義塾基礎科学・基盤工学インスティテュートの設立です。

国際人材育成のための教育プログラムの改革は、すでにその一部が実施に移されています。今年度から新たに、学部1年生を対象とした、グローバルリーダーシップセミナーが日吉キャンパスにおいて開講されました。矢上キャンパスにおける学科専門教育課程においては、クォーター制の導入により、海外インターンシップなどへのチャレンジの機会を増やします。大学院修士課程における国外留学制度として、ダブルディグリープログラムの協定校には、アーヘン工科大学、マドリード工科大学、テレコムプラターニュ電気通信国立大学などが新たに加わり、合計14大学への留学が可能となりました。

また、慶應義塾イノベーションファウンダリーおよび、慶應義塾基礎科学・基盤工学インスティテュートについては、新年度よりそれぞれの活動を開始する予定です。



編集後記

取材で研究室を訪ねると学生がスクールウォーズのDVDを流しており、「青木先生はスクールウォーズが大好きでこの熱血教師そのものなんです」と話してくれ、学生に慕われているんだなと感じました。学生には海外へ行き、経験を積み視野を広げることを推奨され、背中を押しているそうです。ラグビーや柔道をされていて研究室の雰囲気は納得ですが、取材では穏やかに優しく話されます。

今年は理工学部が創立して75年にあたります。施設とともに制度もいっそう充実してきています。本誌で紹介した研究者や研究室の学生が、これからの理工学部新しい足跡を残していられることが楽しみです。

(中野祐子)

新版 窮理図解



No.15 2014 January

編集 新版窮理図解編集委員会
 写真 邑口京一郎
 デザイン 八十島博明、石川幸彦 (GRID)
 編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
 発行者 青山藤詞郎
 発行 慶應義塾大学理工学部
 〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1
 問い合わせ先 (新版窮理図解全般)
 kyurizukai@info.keio.ac.jp
 問い合わせ先 (産学連携)
 kll-liaison@adst.keio.ac.jp
 web版 <http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai>
 twitter <http://twitter.com/keiokyuri>
 facebook <http://www.facebook.com/keiokyuri>